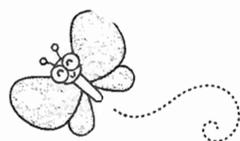


井戸端だより

第61号

発行日:2008.3.26

発行:くらしの学習会



もくじ

1月例会(総会・新年会)報告	1
2月例会報告 ~美を楽しみ心豊かに~	2
3月例会報告 ~家庭菜園とおひな様をみて~	3
手抜き料理反省	4
完熟「一期座」	5
ジャコウアゲハ 羽化も近い?	6
東京 ~さまざまな出会い~	7
行ってみたベトナム ハノイ	9
雑感	17
愛媛新聞より 東温市議会ほか	21
お知らせ	23



総会・新年会報告

1月7日は参加者5名でしたが、内容は充実したものでした。

会計報告に引き続き、今年度の事業計画をたてました。

1. 今年度の目玉の活動として、奥川さん（東温市の鳥・動物写真家？）の作品と、菊地さんをはじめ、会員の蝶等の写真のパネル展を中央公民館で行います。夏頃開催を目標に、準備を進めます。
2. 出前講座で聞いた北条にある生ゴミの処理場見学 日程未定
3. 与勇輝人形展（三越）・及び白形さんの作品展（ギャラリー風）に行く。
4. 出合い塾（インドネシアの話）日程未定

とすることで、2月例会に3の活動をあてる。

続いて、一品持ち寄りの新年会。その一品の中に、昨年末に行った「伊丹十三記念館」で発見した厚焼き玉子のレシピ（井戸端だより 12月号に掲載）をみた Kさんは早速試作、ご馳走になったが、彼女の腕前もさることながら、さすが料理も一流な伊丹十三さんの味、ちょっと甘めだったがとても美味しかった。卵10個の厚焼き玉子がいつの間にか空っぽになっていた。

くらしの学習会会計報告(2007.1~12)

収入の部 (円)

会費	45000
蝶絵葉書売り上げより返金	10000
カンパ	4000
利子	32
前年度繰越金	<u>62417</u>
	121449

支出の部 (円)

切手代	7110
用紙代	1990
封筒	396
コピー代	170
出合い塾講師 (2回)	4000
高速道路料金	2400
ガソリン代	<u>2432</u>
	18498

121449-18498=102951 (次年度繰越金)

2月例会 ～美を楽しみ心豊かに～

1月29日(火)少し早めに2月例会を行いました。寒い時期なので室内で楽しめる場所として、三越で開催中の『与 勇輝 人形芸術の世界』と、くらしの学習会で作成した三ヶ村泉の絵葉書写真提供者である白形毅史氏の『水彩画展』を観賞する事に決め、メンバー6名で出かけました。

『与 勇輝 人形芸術の世界』は、パリ・バカラ美術館開催記念展として2月1日まで開催されていました。10時オープンにも拘らず多くの入場者が熱心に一体一体見ていました。人形展とあって大半が女性客です。子供や妖精を題材にした作品のほか、映画監督の小津安二郎さんへのオマージュとして映画のワンシーンを再現した作品が、約130体ガラスケースに程よいライトアップされ展示してあります。明治～大正期の着物姿の子供達の可愛いこと。素材はほとんど木綿だとインタビューで言っていたが、50cm程度の人形に着せる着物の模様のしっとり感(古布を使っているのでしょうか?)だとしたら素材集めも大変かも)その時代の雰囲気、小物に至まで詳細に再現されています。友人の娘さんの幼少時にとってもよく似たお顔の作品があり、特別な思いで見入ってしまいました。小津監督の映画は海外での評価が高いとの事。私世代ではあまり目にした作品は少ないのですが(「東京物語」はテレビで見た覚えがあります)雑誌等の写真で見た小津監督・役柄での笠智衆・原せつ子等、すぐ分かる表情を切り取られていました。素晴らしい人形に心豊かになれた作品展でした。

6階の美術ギャラリーでは『ベルナール・ビュッフェ絵画展』を鑑賞。直線と斜線の交差によって生み出される独特な作品は強烈な印象を脳裏に焼き付けられました。先程までのほんわかモードからピリッとモードに大変換。

次の会場アートギャラリー風『白形毅史 水彩画展』へ。メンバーのOさんは白形氏の絵画教室に通っていて月2回会っているのですが、とても久しぶりだったり、初めてのメンバーもいてドキドキしながら会場へ。ガラス越しに私たちの姿が見えたのかドアを開け出迎えてくれました。ふわーとしたバラ・猫・少女の作品。多くの風景画には白形氏らしい文字で地名が書かれている。皿ヶ峰や上林の風景・西岡の木立ち・三ヶ村泉・双海の棚田と瀬戸内海の夕景等ちょっと足を伸ばせばその場所に行くことが出来るとても身近に思える作品です。が、その場所を訪れてもその構図を切り出すことは困難、これがプロの成せる技なのでしょう。でも、切り取られた風景を捜し出す事が出来たらステキですね。しかし、その風景がいつまでもあるとは限らない危うさも感じられた作品展でもありました。(A. M)

3月例会 ～家庭菜園とおひな様を見て～

窓を開けると山々はうっすら雪化粧。道路が凍っていないか心配したが大丈夫。平井駅下車。Oさん宅へ向かう途中、ユーカリ・紅梅・白梅、軒下にはアロエが見事に花をつけていた。「このアロエの葉は胃腸・便秘・やけど・歯痛・虫されなどに効き医者いらずとも言う」などとおしゃべりしている間にOさん宅へ着く。

先ず、家庭菜園を見学。タカ菜・小松菜・大根・人参・葱・春菊・ほうれん草・三つ葉・にら・そら豆・えんどう・アスパラ・いちご・タラの芽・フキ・畑ワサビ・玉葱・じゃがいも・サラダカラシ菜・ハーブ類（セロリ・バジル・ローズマリー・タイム・パセリ）。レタスとちしは食べてしまったとか。Oさん曰く「草引きはしない方が根っこが凍らないからよいのではないかと。そう言えば、伊予市大平に有名な自然農法の先駆者が居られ、作物と雑草の共生を実践されていた。化学肥料と除草剤でコントロールされた土地と雑草は生えていても堆肥で土づくりからして取れたものは自ずと違う。だから家庭菜園で取れた人参は生で食べたら甘い。人参・大根の葉など捨てる場所のない調理法。こうして彼女は家族の健康とダンナ様の胃袋をしっかりとつかんでいた。

思うに「食の安全・安心」が叫ばれて久しいが、作今、何を信用したらよいのかわからない問題が続発している。今、生まれる子どもの4人に1人は何らかの異常があるという。これ以上、将来を担う子ども達に負の遺産を残してはいけない。遅きに失した感はあるが「地産・地消」を農家・消費者と共に自治体の農政担当者が真剣に取り組んで自給率を上げることである。輸入に頼っているのは、天災があった時「自国民が餓えてまで、他国へ輸出はしない」と断られるだろうし、食の安心・安全のためにも、自給率の向上はまったなしである。

菜園見学後、Oさん宅でご両親から60年前に贈られたという「おひな様」の前でお抹茶とお菓子で「作法より先ず、たてて飲むこと」とめいめい気に入ったお茶碗で好きなだけいただき至福の時間を過ごした。おひな様もえらい作法があるものだと思いを白黒なさったことでしょう。昼食はお寿司でしめくくり、心身共にリラックスして帰途につく。今日は久しぶりに和の時間を過ごし、日本文化のすばらしさを再認識した日でもあった。

(S・M)

手抜き料理反省

テレビで、ある評論家が中国製毒ギョウザについて、日本の主婦の手抜き料理が多すぎるからだと言いつつ切っていた。確かに私もその論に反省しきりである。でも、日本の男性に言われたくないと思うのは私だけだろうか。

私達の子供時代の母親は、家事に子育てに全力を尽していた姿が目には浮かぶ。毛糸の服は冬に間に合う様に夜遅く迄手仕事をし、食事の支度も薪に炭で長い時間手間を掛けていた。私が結婚し子育てを始めた頃は、電気器具も少なく、おしめも手洗い、ごはんも炭火と時間が掛かり手抜きは出来なかった。

安い洋服にお惣菜と既製品が出だしたのは、昭和40年も後半になってからだったと思う。冷凍食品やお惣菜を買って帰り「チン」しての食事はちょっと侘しい気もしていたが、世の流れの様に思っていた。

手抜き料理で生み出した時間は、仕事にテレビに社会奉仕にと、遊んだのではないが。

それが女性の地位向上にも役立っていると思う。どこかに間違いがあったのだろう。安くて速くて手間いらずが先に立ち、食の安心安全をおろそかにしていたのも事実である。

次々に起こる食品の偽装問題は企業側の儲け主義に走ったのが原因であり、安全安心が抜けてしまった日本の姿である。

スーパーの食品売り場も変わって来た。冷凍食品の安売り日も前の様につめ掛ける姿もなく、宮崎産とか秋田産とか表示され買う側を選ぶ自由が出来たので安心して買う事が出来る。また、安かった中国産は、今のところ姿を消した様に見えるが、食材の中身迄は分らないのが事実である。

しかし、日本の食の自給率は39%というから、中国産をすべてストップすると、一日一回の食事しか摂れない事になる。日本の農政が輸入に頼り過ぎたのが原因だと思うが、無駄をはぶき食材を残す事なく使う事を実践すればもう少し自給率も上がり、食に対する考え方も変わって来るのではなかろうか。

(Sa・H)

楽しみにしていた坊ちゃん劇場の〔再婚申し込み〕を観た。当日は3人分の席取りで、開始時間の2時間前に劇場の前に並んだ。同じような人もいるもので、私が先頭ではなく、前に15人ばかりの人がいた。当日はとても寒く、2時間待ちは大変だったが、気持ちはわくわくしていた。人生初の場所取り経験に挑戦。待っている途中に、事前にどこがいい場所かを説明してくれる人もいて、ラッキーな場所を確保した。と思ったのだが、何と、目の前に県知事が座った。ちょっとだけだが、緊張感漂う観劇の開始となった。

年長の女性の誘導でお話は始まった。事前に新聞に出ていた人だなあとすると応援をしたくなる。理想的に年令を重ねた人だと思わせる。母よりも年長の人だが実に魅力的な人だ。演出家はうまい。彼女に出て話をされては、賭けに最初から負けているようなものだ。

座員の皆さんは素人集団ではなく、経験者もいて、実に堂々と、楽しんで演じていたように思えた。配役の一人一人が実にいい。生き生きしている。女装した体格の良い男性が役にぴったりだったとは言いにくいけれど、劇中劇の男装役はコメディを最高に盛り上げたと言える。そう彼女達が演じたのか、演出家の適材適所が当たったのかはわからないけれど、観客は声を出して笑う。客席の反応が良いと演技者も力を込めて演技をしている。拍手が出ると、役者の声にも力が入る。その他大勢役のキューピット隊がどたばたしないかと不安がよぎったが、ミュージックスタートで更に盛り上げた。ミュージカルは少人数だと迫力がでない。寂しいと感じさせないギリギリの人数なのかなあ。

観劇の途中、客席と演技者の一体感を何度も味あわせてもらった。音楽と歌と手拍子が揃うと、一体感に後れを取ってはいけなないと、多くの観客が更に盛り上げることになる。相乗効果で観劇の醍醐味を感じさせてもらった。

観劇後、ロビーに出ると顔を高潮させた、充実感を体中から出している多くの座員がいた。いい作品でしたと、声をかけたい気持ちをおさえて出口に向かった。

年を重ねるとなかなか新しいことに挑戦できないが、一期座に挑戦した皆さんに心からの拍手を送りたい。

自分の人生を振り返る時期が人には必ず来る。その時に、今日の日は実に良い日になる。良い日を分けてもらえた私にとっても良い日になった。一緒に観劇した母と妹にとっても良い日になったと思う。母と妹の笑う声が今も耳に残っている。三人で観劇した最初の記念日になった。

完熟 一期座は新しく劇団員を募集中と聞いた。次回も楽しみたい。

(M・T)

ジャコウアゲハ 羽化も近い？

さなぎのまま冬を越したジャコウアゲハ

周りの葉っぱも落ち風雨に曝されながらじっと耐えてきたこの数ヶ月、

自然の摂理とはいえその生命力には勇気づけられる。

毎朝洗濯物を干す時に、そのさなぎがかきついているブロック塀を、梅の木を、ノゼンカズラの木を手差して、その存在を確認し安堵していた。

このところの暖かさでポツポツ庭にも花が咲き始めた。

ウマノスズクサの新芽はまだ出ていない。

蝶を受け入れる環境も整いつつある。羽化する瞬間を見たい。

残念なことがあった。1月中ごろ、家の片隅に蝶の羽の一部が落ちていた。

「アレ」とそのまま過ごした数日後、今度は簞笥の隙間で蝶をみつけた。

ジャコウアゲハの死骸だった。部屋の中にあるゴムの木にくっつけていた

さなぎの一つが空っぽになっていた。

暖かい部屋の中で錯覚を起こしたのか羽化してしまった。

食べ物もなくかわいそうなことをしてしまった。

ゴムの木にはまだ一個さなぎがいる。

(S・K)

東京 ～さまざまな出会い～

思いつ切り楽しんできた。

千葉県柏市に住むIさんが新築したというので、高校の同級生5人で押しかけた。まさに修学旅行の再現を思わせる新幹線の旅だった。

「ハルちゃん」「ヒロ子ちゃん」と呼び合うご夫妻のローストビーフがメインの手料理、近々田舎の母親を迎えようとエレベーターまで付けた広々とした高齢化に向けての便利な作りの家。手入れした花壇に迎えられ全員笑顔と笑い声が全開。ちょうど関東地方が強風の時「我家も暴風が吹き荒れました」とはご主人の「ハルちゃん」の言葉。

Iさんは月に2度、実家へお母様の介護に帰郷、しかも幼稚園の実質理事長という重責をもこなす、超スーパーウーマンぶりに敬服した。

2日目は、春の嵐の吹き抜ける中、ほとバスで「湯島天神と世界のらん展」へ。湯島天神の梅は3分咲き、梅祭り会場の春を先取りした優雅で豪華な花展、また受験シーズン、絵馬の多さに仰天。昼食はらん展会場の東京ドームに隣接するホテルで豪華中華料理。世界のらん展は、どよめきやため息の中2時間足らずの見学。縦横無尽のようでちゃんと治まって見える花々のディスプレイ、気品のある香り、絢爛豪華な花にカメラのシャッターを押し続けた。夕方ホテルで千葉市在住のHさんと西東京市にお住まいのMさんと感激の再会。Mさんの両足を揃え背筋を伸ばした立姿は美しく1年3ヵ月前の手術のことを思い感激した。更に車で私たちおのぼりさんを引きつれ銀座通りを案内してくれるのだから、それはもう大変な驚き。

その日は7人が宿泊。HさんとMさんとは50年ぶりに対面する人もいて話は尽きることはない。夜中の2時半まで話しこんだ部屋もあったとか。

3日目、又もやMさんの車にお世話になり、懐かしの東京タワーに。真白い富士山が目飛び込んでくる。強風後の眼下の景色が清々しい。空気まで美味しく感じる。修学旅行で見学した国会議事堂（よく覚えている者がいて愛媛選出の議員に握手してもらってバッジをもらったとか）、皇居の周り、千鳥ヶ淵を通過して靖国神社へ。就遊館で近藤哲夫さん（同級生で彫刻家）の「戦友」像とも対面。東京駅までMさんが送ってくれる。

新幹線で帰る皆と別れて、防衛庁跡地に出来た東京ミッドタウン内のサントリー美術館で「ロートレック展」を見た。以前訪れたパリのモンマルトルの歓楽の世界を中心に描いた作品を楽しんだ後、杉並区に住む娘の家に。「家に着いたら即お風呂に入れる幸せ、お風呂から出たらご飯が出来ている幸せ」などといいながらその晩は10時間爆睡。

疲れもとれた翌日は娘の職場の近くまで出向き、日本橋三越本店新館7階ギャラリーで「富嶽三十六景と富嶽百景 北斎富士を描く展」を見た。構図が参考になる「絵本富嶽百景」を買った。昼食は娘の同僚も交え三越隣の日本橋三井本館2階の千疋屋で済ます。ここでは長崎産のでこぼん一個2,100円、干柿一個700円には驚いた。午後は三井記念美術館で「三井家のおひなさま展」を。職人の手先の器用さ、優れた色彩感覚、それぞれの者と物の意味あいを納得したり感心したりしながら自分自身の幼い頃を思い起した。更に丸の内まで行き、帝国劇場ビルの9階にある（皇居の一部が見渡せる）出光美術館で「西行の仮名 俵屋宗達筆・西行物語絵巻」を。夜は日生劇場で原出版100周年の「劇団四季ミュージカル赤毛のアン」を観劇。無条件で楽しめた。

今回、「着物でお越しの方は入場料を値引きします」の文言をアチコチの展覧会場で見た。

5日目、上野の森美術館で水墨画界の巨星「王子江展」を本人の解説付きで見た。数点の2m×100m級の水墨画・墨彩画の躍動感に息を飲んだ。上野公園内の和食料理屋で嫁と孫と娘の女性4人で昼食。昨年の夏以来孫との対面。4歳のかわいいしぐさがいとおしい。

22:27分、近くの見奈良駅に到着。帰りの新幹線の一人旅は長かった。

今回の旅はちょっと欲張りすぎた。それぞれの人や物と出会い、それぞれの場所での感動があった。そして何かを学んだ。それにしてもよく歩いた！ 出発前に少し前かがみになっていた腰が伸びたのではと思うほど。

直後、友から数回に分けてメールに添付した「らん」の写真が100枚程届いた。会場で買った匂い袋をパソコンの横に置きしばし余韻に浸った。

(S.K)

行ってみたベトナム ハノイ

2月24日午後7時頃関西空港を飛び立ち、飛行時間約5時間で現地時間夜10時過ぎ（時差2時間）ベトナムのハノイに着いた。今回は日本語教師仲間4人で、教え子・知人に会うことを主目的にした旅行だった。往復の航空券+ホテル（朝食つき）で7万円を切るという格安チケットだったが、原油高によるオイルチャージが15000円、松山から関空までの往復が1万円で結局は9万円を超えてしまった。

深夜に着いた空港には、日本語を話すベトナム人のツアーガイドが迎えに来てくれていたが、ほぼ同時刻に着く予定の韓国からの飛行機が遅れ、ガイドはそちらの受け入れのため空港に残ったので、我々4人は、日本語が全く分からない運転手のワゴン車で先にホテルへ向かう。ホテルで待つこと1時間余り、例のガイドから部屋に連絡が入り、ロビーに集まる。ハノイでは何も入っていないフリーステイなので、最終日の迎えのバスの時間ぐらいしか連絡事項はないが、ホテル側に取り上げられていたパスポートを返してもらいほっとする。

25日ホテルの朝食は、ベトナム料理満載のバイキング。フォー（米粉で作った少し平たい麺）もチャー・ゾー（揚げ春巻き）も青菜炒めもある。味もまあまあだ。

ホテルのフロントで、5000円を現地通貨ベトナムドンに両替してもらおう。10000ドン=約74円で、0のたくさんついたお札を手にする。ホテルは、旧市街の近くにあって、ベトナム庶民の生活を垣間見るのにいい。湿気の多い曇り空。バイクの何と多いことか。その中に車が混じっている。道を渡るのがいかに難しいか。神経を使って歩いて、すぐ近くにあるドンスアン市場へ。様々な種類の商品が所狭しと並んでいる（排気ガスよけ？のカラフルなマスクもある）。通り抜けるのも難しいぐらいだ。客の呼び込みなどないので、見学するだけの我々にはありがたい。教え子から想像するベトナム人は人なつっこいイメージだったが、特に北に位置するハノイ市民の何と無愛想なことか。表情が硬くにこりともしない、邪魔だと知らせるのに、言葉も掛けず直接排除行動に出る、など印象は悪い。鉄道の駅（ロンビエン駅）が近

くにあつて、ちょうど通りかかった時、長い列車が止まった。駅にはとても入りきらない。ベトナムの鉄道は、一日 3-4 本ぐらいしかないとのこと。線路の上を歩いている人をよく見かける訳が分かった。

現在青年海外協力隊員としてハノイの大学で日本語を教えている A さんが、ホテルに迎えてきてくれた。大型タクシーに乗って街に繰り出す。ハノイの大型スーパーをのぞいてみる。ガイドブックに手荷物は預けさせられると書いてあったが、何も言われなかった。品揃えは実に豊富。特に変わったところはない。ただ驚いたのは、スーパーならレジで大きい額のお金のお釣りがもらえるかと思っただが、お釣り不足を理由に断られてしまったことぐらいか。お昼は、高級な趣のレストランで。スープと一皿に主菜四種をのせたセットメニューがいくつかあったので、5人違うものを注文し、皆で少しずつ味見をした。どれもおいしかった。ガイドブックにあった木彫りの判を作ってくれるところへ行く。見本の図柄と入れてほしい字を組み合わせて、彫ってもらうのだが、たくさんある見本から選ぶのが楽しい。私は、学生の提出物に押す判を 2 種注文した。27 日 5 時以降に取りに来てくれとのこと。楽しみだ。ハノイの旧市街は、通りごとに同種の店が集まっていて、銀通り、木綿通り、等となっている。ぬいぐるみの店ばかりの通り、伝統楽器の店ばかりの通りなどもあって見ていて面白い。本屋で家族などに出す絵はがきを買う。パリのオペラ座をまねて建てられた大劇場前で結婚式の写真撮影に遭遇。ここは人気のある撮影スポットだそうで、花嫁は白のウェディングドレス、花婿は黒いスーツ、親族女性は若い人から年輩の人までアオザイで、興味深かった。シクロ（輪タク）やバイクタクシーが客引きをしている。値段は交渉次第ということだが、夜間の利用は危ないとか。一番安全なのは、タクシーで、メーターのついているものなら、まず間違いはないらしい。ここではレストランでもタクシーでもチップに悩まされないのがいい。

夜は、昔私が大学で日本語を教えたことがあるベトナム人夫妻がホテルまで 7 時頃迎えに来てくれることになっていたが、政府に勤めている二人の仕事が終わるのが遅れ、さらにはハノイの交通渋滞で（勿論途中で遅れると連絡はあったが）ホテルに来てくれたのが、9 時ちょっと前。家に招待してくれるということだったので、何も食わずに待っていた私たちは、事情変更

を察するべきだったと恥じた。お宅にうかがい、出されたのは、ハノイビールとおつまみ数種だけだった。しかし、ベトナム人の家、家庭を垣間見られたことはいい経験だった。素晴らしい住宅だった。奥さんの両親の家だったそうで、お父さんはすでになくなり、お母さんは隣に住んでいるとか。天井は高く、広い居間にソファーが置いてある。階段の壁には、彼らが日本にいたときに撮った家族4人の和服姿の大きな写真、立派な食器戸棚の上には、アオザイで正装した彼らの親族の写真が飾ってある。彼らには、娘が二人いて、上の子は両親が帰国するとき、一緒に帰らず日本に留まり日本の高校に入り、その後愛媛大学に入り、今年3月卒業する。卒業後は日本の銀行のハノイ支店に就職も決まっただけで、もうすぐ帰国するとのこと、両親もホットした様子。下の子は、帰国時小学校5年生で、現在高校生になっているが、今でもきれいな日本語を話す。現在日本語特進クラスに入っているとのこと、家族の中では一番日本語ができる。日本語を話すのに全く不自由はない。ベトナムでは、学校は二部制をとっていて、彼女は午後の部の学生だとか。午前は7時から始まりお昼まで、午後の部は12時半から始まり5時半までとか。午後の部の子達はたいてい午前中塾に通っているとか。夜10時過ぎタクシーでホテルに戻る。行きに比べてタクシー代が明らかに高いと感じた。タクシーは、10時を過ぎると夜間料金で高くなるのが後で分かった。

26日は、世界遺産ハロン湾のツアーに申し込んでいた。一人80ドル。マイクロバスが8時半に迎えに来てくれた。ベトナム人にしては長身の女性ガイドさんの案内だ。間違いはあるもののよく分かる日本語で色々教えてくれる。ハノイの人口450万人、バイクはその半数もある。車も最近が増えていて、性能のいいトヨタ車はあこがれの的だという。注文して手に入るまで半年かかるとのこと。鉄道の通るロンビエン橋は、フランス人が造った美しい橋だったが、北爆で一部破壊され、修復されたところは元通りになっていない。今年、フランス政府の資金援助で元通りの美しい形に修復されるとのこと。国を南北に走る国道1号線は、ここから150kmで中国国境に達するという。ハロン湾まで3時間、国道5号線を走る。あいにくの雨の中、所々レインコートを着て、その中でバゲット（フランスパン）を一杯抱えて

売っている人がいる。国道沿いにはバナナ畑。7種類のバナナがあり、1年中収穫できるとか。ベトナムのお墓は、北の方では2回土葬するとのこと。2回目の土葬は、土の上に花輪が飾られている。ベトナムでは二期作が行われていて、普通テト（旧正月の祭り）の前1月末頃に田植えをするそうだが、今年は大寒波の影響で苗が寒さにやられて、遅くなっているとのこと。水牛を使つての代掻きに欧米人が珍しがってかバスを降りて撮影している。工業団地には、日本の佐川急便、キャノンなどが並んでいる。学校は、午前の部、午後の部という話を前に聞いていたので、午前の部が終わって帰る学生、午後の部で登校する学生を見ても不思議に思わなかった。ベトナムの教育制度は5・4・3制、学校を含む公的な建物は黄色が多い。家の建築現場を幾度も目にしたが、どれも煉瓦を積んで、セメントでぬっただけで極めて簡単。地震がないのかと聞いたら、あることはあるが、大地震はないとのこと。建物の建て方は、間口が狭く奥行きがあり、3階建てで1階は店、2階以上に住宅があり、必ずテラスがあるというパターンが多い。途中刺繍の絵を作っている工房を見学。一針ずつさして作っていく。大きいものは2か月もかかるという。お土産に数枚購入する。ベトナムは火力発電40%、水力発電60%で主な電力を賄っているが、昨今の電力不足で、中国からも買っているそう。途中地面も建物も黒い石炭の町を通る。海が近くなるにしたがい、エビの養殖地、マングローブの林を見る。ハロン湾に到着。凄い雨で、ガイドさんがレインコートを買うというので、ついでに我々の分も買ってきてもらった。1つ5000ドンだから40円もしないが、作りが雑で、袖が通らなかつたり、始めから破れていたりでひどい代物だった。風雨をしのぐにはそれでもないよりはましだった。船に乗り込んでからは、さほど揺れるでもなく大丈夫だった。後で聞いたことだが、3時間かけてここに来て、天候が悪く船に乗れないこともあるという。これでも運が良かったらしい。早速昼食。ゆでたエビ、蟹の料理、貝の酒蒸しなどすべておいしかった。ハロン湾は、ガイドブックによると「海面からそびえ立つ断崖絶壁の巨大な岩々、波の侵食によって造られた奇怪な岩が織りなす、幻想的で見事な自然芸術。海の桂林とも呼ばれ水墨画のような世界をボートはゆっくり進んでいく」とあるがまさにその通り。霧雨の中、幻想的な墨絵の世界が広がってい

た。船の屋上に上がって雄鳥、雌鳥の形をした岩を撮影する。時々物売りの船が我々の船に横付し、果物や野菜を売りに来る。水上マーケットもある。鍾乳洞のある島に渡った。鍾乳洞なのに、じめじめしていないのに驚く。4時間ほどの船でのツアーを終えてハノイへ戻る。途中我々のマイクロバスはクリーム色の制服の交通警察に止められ、警察の詰め所まで戻らされる。何とナンバーが汚れていて見えないからという理由で、免許証を取り上げられたのだ。罰金を払えば返してもらえるらしい。ガイドさん曰く、交通警察はベトナムでは嫌われているとか、お金がなくなると、難癖を付けて罰金を取るとのこと。お金は本当に国庫に入るかどうかは分からないという。賄賂を払っている会社は止められないと言う。何ということか。ハノイには7時頃帰ってきて、ガイドさんの紹介で予約したレストランまで送ってもらう。ここで、初めて生春巻きを食べる。ベトナムでは、概していいレストランは我々が食べ慣れている中華料理の味に近くなるようで、難はないが、面白みもない。値段も高めで観光セットメニュー17ドル。帰りは歩いてホテルまで帰る。途中ガイドさんに教えてもらったおいしいというケーキ屋で、かろうじて残っていたケーキを買い、ホテルの部屋で4人で小宴会。前の日に教え子にもらった赤米で造ったというお酒も飲む。強いお酒で、水割りにして飲んだが、まあまあ飲めた。

27日は、朝9時Aさんが再び来てくれて、半日チャーターしたタクシーでハノイから北東40kmに位置するドンホーの版画村へ。途中の風景の移り変わりが面白い。都会から田舎へ、時々市が開かれている。ドンホー村では、無形文化財という職人の一人の工房に入る。中国伝来の版画がベトナム風に変化して定着したということで、漢詩・故事・英雄伝・動物がテーマになっている。カードをお土産に買う。

昼ご飯はAさんがよく行くという焼き鳥の店（ビン・ミン）へ。串焼きで、ジャガイモ、手羽、ももなど食べる。足はちょっとグロテスクでやめた。鳥インフルエンザも、十分加熱してあれば問題はないとあったので、この店のようにしっかり焼いた串焼きは大丈夫。フランスパンを押しつぶし、甘いバターを塗りながら炭焼きで焼いたパンは絶品だった。2時45分に水上人形劇を予約してもらっていたので、それまでホアンキエム湖畔を歩く。湖に

は 2 つの小島があり、中央の小島は亀の塔と呼ばれる八角の塔が立っている。もう一つの島は、玉山祠と呼ばれ、学問の神、武の神、医の神が祭られているという。祠まで赤い橋を渡り、3つの中国風の石門を通っていく。

水上人形劇は、ユーモアたっぷりて面白かった。左手前方は、歌と楽器演奏者の席。水しぶきが効果的で、せりふの意味は分からないが、ストーリーは単純明快なので解説がなくても分かる。最後に人形の遣い手が幕の後ろから出てきてフィナーレ。初めて、ベトナムコーヒーを飲んだ。練乳をたっぷり入れたカップに、独特のフィルターで入れたコーヒーで、苦みと甘みが混じり合っていておもしろい味。お土産にこのコーヒーセットを買った。うちに帰ったら実験してみよう。初日に注文した判を取りに行く。なかなか良くできていた。いい記念ができてうれしい。

27 日夜は、ハノイ工科大学で日本語を教えている教師仲間に Highway4 というレストランで 7 時に会う約束になっていた。タクシーの運転手に店の名刺を見せて、連れて行ってもらったところが、同じ名前の別の店で、またタクシーに乗り直し無事たどり着く。ハノイのこのころの平均気温は 18 度ぐらいということだったが、今年は寒く、出発時の日本の気温 5 度対策の服装でも問題がないぐらいだった。屋上席を予約してくれていたが、寒いので下のテーブル席に変えてもらった。注文した麴鍋は、麴の入ったスープに骨付きの鳥、数種の青菜を入れて、最後にインスタントラーメンをわり入れて食べるというもの。体が温まっておいしかった。サイゴンビールもドモイビールもおいしかった。リクエストの硬い煎餅とインスタントみそ汁をお土産に渡す。日本から持参した日本語教材は役に立つようだ。彼は今の職が契約切れになったら、次の職を考えなければならないということで、みんなと相談に乗った。外国での日本語教師稼業も楽ではない。10 時を過ぎタクシーでホテルに戻る。

28 日は最終日。仲間の一人の友達 M さんが教えているハノイ貿易大学の日本語の学生が朝から市内を案内してくれることになっていた。まず 1076 年に開校したベトナム最古の大学が置かれていたという文廟（孔子廟）へ。境内に並ぶ石碑には科挙登用試験の合格者の名前が刻まれている。3 人の学生達がまだつたない日本語で一生懸命説明してくれる。好感が持てる。古典

楽器で演奏してくれる音楽を聴く所があった。竹製で、手を合わせて空気を送り音を出す楽器、叩いて音を出す楽器などあった。寒いのでアオザイの上にカーディガンを羽織って演奏している。ベトナムでは CHU VAN AN という人が、すべての先生の模範と評されていて、文廟における王の先生として招かれ、国家建設にも尽力したという。彼の人格について語られた伝説は数多くあるらしい。文廟の後、3人の学生は私たちをホアンキエム湖へ案内してくれるつもりだったらしい。そこはもう行ったのでできればホーチミン廟へ行きたいというと、始めは困ったような面持ちだったが、快く連れて行ってくれた。ホーチミン廟は、荷物とは別にカメラも携帯も預けさせられたりして警備が厳しかった。声を立ててもいけない。前に並んでいたカップルが、入れてもらえなかった。その時は何故か分からなかったが、どうもサンダル履きだったようだ。中に偉大な主席ホーチミンが眠っていて、そのまわりをびくりともしない衛兵が常時4人で警護している。他の雑然とした景色の中で、ここだけは異彩を放っていた。ホーチミンが住んでいた家、仕事をした家など見学できた。質素な佇まいが彼の人物を物語っているのか。ホーチミンは、永遠にベトナムの英雄であり続けることだろう。

11時過ぎにホテルに戻る。午後から授業だという3人の学生にはここで別れる。ご苦労様。本当に有り難う。無理を言ってごめんなさい。昼頃、私たち4人が、大学で教えたことのある元留学生がホテルまで来てくれた。彼女のご案内で、ブン・チャー（米粉で作った細い麺に、ハンバーグと焼き肉のたれをつけて焼いた豚肉をのせてつけ汁で食べる料理）の有名な店に行く。彼女のご主人（元留学生）も呼び一緒にお昼ご飯を食べる。おいしかった。すごい量だった。満腹なのに、さらにチェ（ベトナム風あんみつ）の店に行く。氷入りのと温かいのがあって、人数分違うものを注文し、みんなで少しずつ味見する。果物主体のもの、コーンや豆主体のものなど色々あっておいしかったが、お腹が一杯で苦しかった。5年日本にいて昨年9月に帰国した彼女は、始めハノイの道路に慣れなくてバイクの運転が怖かったが、今はやっと慣れたとのこと。帰国間際に日本で生まれた赤ちゃんは両親に預けて仕事をしているという。日本語を話す機会が全くなくて寂しいということなので、話し相手になる日本人を紹介することになった。折角身につけた日本語

なのだから是非維持してもらいたいものだ。二人には 2 時半頃別れ、朝案内してくれた 3 人の学生の大学へ行って、見学させてもらうことになっていたが、何の間違いか乗ったタクシーに違う大学（ハノイ大学）へ連れて行かれてしまった。大通りで運良くタクシーが拾えたので、何とかハノイ貿易大学へたどり着けた。この大学は優秀な学生が入るらしい。パワーポイントを使って教えている先生もいる。残念ながら日本語の授業時間に間に合わなくて授業は見せてもらえなかったが、日本語科の教員控え室にも案内していただく。その後、構内にある M さんのご主人の案内で JAICA の事務所を見学させていただく。M さんのご主人は国際交流基金のスタッフで、この地での日本語教育の充実に力を注いでいらっしゃる。図書館の日本語の教科書などは充実している。現在整備中の設備も素晴らしい。日本語能力試験の受験対策の授業もあるという。その後 M さんの超高級マンションにうかがい、どこの大都市にも負けないハノイの都会部分を味わうこともできた。

6 時半旧市街のハンザ市場の前で A さんと会い、最後に夕食を一緒にする事になっていた。A さんのボーイフレンドも一緒に、市場の向かいの大衆食堂へ。蟹チャーハン、スープがおいしかった。8 時にホテルへ迎えのワゴン車が来ることになっていたが、来ない。電話で催促したところ、8 時半だという。絶対 8 時だと言っていたのに。空港へは、十分間に合ったので良かったが。28 日夜 11 時半出発予定が、飛行機が遅れ 29 日に日付けが変わってからの出発となった。しかし帰りは気流に乗るからか、行きより 1 時間半も飛行時間が短く、3 時間半ということで、日本時間朝 5 時半無事関空に戻ってきた。

ベトナムの排気ガスにやられたのか、寒さにやられたのかは分からないが、4 人とも体調を崩してしまった。帰国後 3 日目私は、熱を出し、鳥インフルエンザではないが、インフルエンザ B 型と診断されしばらく家から出られなかった。それでも、今まで行ったところとは全く違い面白い体験ができたと思う。旅は人との出会いが大きい。日本語教師をしていて本当に良かったと思う旅だった。

(T・H)

雑感

椿さんが終わっても、奈良の御水取が始まって、何時までも続くかのように思われた厳しい冷え込みも、御水取が終わりに近づいた頃から、急に春が駆け足でやって来た様で暖かな陽射しに包まれる様になりました。山の木々も淡紅色の霞がかかった様に見えます。固く閉ざしていた蕾が開花の準備を始めたに違いありません。近所の紅梅ではメジロが遊び、山からは鶯の歌声が聴こえてくる様になりました。畑ではモズが餌をねだり、モンシロチョウが飛び交っています。

お正月気分がまだ抜けきっていない一月の終わりに突然飛び込んできた中国製冷凍餃子による食中毒のニュース。食の安全を第一義に標榜していた筈の日生協が関係する製品だったこと、重体に陥った女兒がいたこと、年末に発生していながら公表が随分遅れたことなどで日本中が騒然とし、今まで耳にしたことすら無かったメタミドホスとかジクロルボスなどの化学薬品の名前が私達の日常会話に登場するようになりました。未だに農薬の混入経路は特定されていません。外食、中食などが今ほど一般的でなかった頃、それらは家で調理する食事より高価なものでした。当然です。それがいつの間にか、特に中食は家で作るより安価に手に入れることも可能になってきました。他人様に作っていただいて、輸送までしているのに! です。最初はとても不思議に感じたものですが、近頃では当たり前になってしまっていました。しかし現場では大量生産とか効率とかではどうにもならない無理を重ねてきたに違いありません。多くの人手を経て、遠くから時間をかけて運べば、その間に事件、事故が起きる可能性は高くなります。そして世論は一気に国産食品志向へと傾きました。

そこで問題になるのが我が国の食料自給率の低さです。先進国の中でも最低の40%以下というお粗末さです。世界中で気候変動による農作物の収穫減や食糧品からのバイオ燃料製造など、輸入したくても出来ない時が来るのが現実味を帯びてきた今、少しでも自給率を上げることを模索することが急務です。しかし現在、耕作放棄地と休耕田を合わせると東京都の面積の3倍近くにもなると言います。生産調整すれば補助金を出す農業政策の為、豊作で採れすぎた農産物は無残にも廃棄されます。なんとも勿体ないことですし、手塩にかけて育てた生産者の辛さは察す

るに余りあります。農水省は第一次産業が真に元気になる為の施策を講じて欲しいものです。高知県が勧めている“森の力、プロジェクト”は企業がカーボンオフセットをしながら地元が元気になる素晴らしい取り組みだと思います。一方、私達消費者は地元の旬の食材を隅から隅まで楽しむ工夫が必要です。郷土料理は地元の風土にあった食の知恵の宝庫です。

このところ世界の、日本の各地から様々な“お取り寄せ食品”を入手することが流行のようです。美味しくて珍しいものを居ながらにして手にすることが出来るのは魅力的なことですし、楽しいことです。でもその幸せを享受する時のフードマイレージ（食品の輸送の際トラックなどから排出される CO2 量）、エコロジカルフットプリント(自分と同じ暮らしを世界中の人がした場合に地球何個分の陸や海が必要か)のことを忘れない様にしなくては、と思うのです。ちなみに日本人の平均は地球 2.4 個分だそうです。環境 NPO エコロジカルフットプリント、ジャパンがホームページで無料公開している診断クイズを試してみたい方は

<http://www.ecofoot.jp/quiz/index.html> どうぞ。

また、輸入食材についてはその食材がフェアトレードされたものかどうか意識しなくてはと思います。途上国の産品を安く買い漁ることは環境破壊や紛争に繋がると考えるからです。

法政大学の学生たちがフェアトレード、コミュニティーを結成し途上国の産品を適正価格で購入する運動を展開しています。近頃、若者の車離れが進んでいるというニュースも耳にしました。嬉しくなりました。

リサイクルに関して何かと過激な発言ばかりが取り上げられる“環境問題はなぜうそがまかり通るのか”の著者、武田邦彦氏ですが、リサイクルすることを免罪符に大量消費、大量廃棄がまかり通っている現在の世相を批判し、長寿の製品を作り、市民もそれを愛用し、無駄なものを買わないことでごみを減らし資源を大切にす社会へと成熟して欲しいと発言しています。同感です。

イービス艦と漁船の衝突事故で、道路特定財源問題で、年金問題で、政治家たちの迷走発言が続いています。ウンザリです。

現代の科学技術の粋を結集したイービス艦が衝突事故を起こすこと自

体信じられません。あつてはならない事です。

今まで散々いい加減な道路を作り続け、おまけに遊興費としか思えない事にまで特定財源を流用していた人に、今さら真に必要な道路の為、安全な通学路整備の為、救急搬送の為、開かずの踏切解消の為と言われても俄かには信じることはできません。暫定税率に関しても“暫定”であるならば一度撤廃して、必要か否かの議論をすることが必要です。

日銀総裁も衆議院に優越性が無いため参議院での不同意によって期限切れとなり空席が確定しました。“衆参ねじれ現象”がおきている今こそ真に成熟した議論の場を国民に見せて欲しいものです。“参議院は野党が数を頼んで先ずは反対ありきだ”等の閣僚の発言は見苦しい限りです。

“宙に浮いた”年金記録 5000 万件の内 4 割が基礎年金番号への統合が困難となった現時点でも、照合作業は終了させたのだから公約違反では無いとの発言が繰り返されています。耳を疑います。そもそも薬害被害にしても年金記録の不備にしても、立証責任は厚労省にある筈です。それなのに被害者が心身ともに疲労の限界の中で立証しなければ救われない現実はやりきれません。

日本で一番大きい湖、琵琶湖では例年厳寒期の 2 月頃雪解け水や湖面の冷え込みなどで湖水が対流する全循環という現象によって湖底に酸素が供給されているのだそうです。しかし、近年の暖かさでこの深呼吸ができず、湖底が酸欠状態になり、特産魚のイサザなどが死んでいると言います。まさしく呼吸困難です。

湖畔では、音響の良さでは日本一と評されるオペラハウス県立芸術劇場びわこホールが、県の財政難のあおりを受け公演縮小が懸念されています。

300 年前の江戸の風景を伝える、大阪府大東市の“平野屋新田会所”も文科省が保存の意義を認めたにもかかわらず予算面で折り合いがつかず今年解体されました。

特定財源が一般財源化され、地方が自由に使うことが出来るようになれば何とかなるかもしれないと考えるのは甘いのでしょうか？

世界中で紛争が続いています。武器を使って殺戮を繰り返す人間は地球上で最も野蛮な生き物なのかもしれません。言葉は何のためにあるの

でしょう。私達夫婦の高校時代の担任、橋本暢夫 元鳴門教育大学教授は学習指導要領の改訂に対して、朝日新聞 3/12 “私の視点”で『民主社会を支えている話し合う力は聞く力によって成り立っている。その意味で民主社会における教育の重点は、聞く力を育てるために、子どもたちを引きつける話、頭脳を明晰にする話し方に置かれていなければならない。独創的な国語教育を実践した教師、大村はまは聞く力を高め、一人ひとりに即したてびきで主体的に自己の考えを育て、自己の課題をみつめさせる教室を営んできた。話し合うことで考えを深めさせていく、大村はまの実践に学ぶことが、いま求められている。そもそも教育は国家のためにあるのではなく、学習者一人ひとりに社会的存在としての自己を確立させる営みである。生涯にわたって自己を育てながら国際人として生きていく基礎力を養うためには、他と競争させるのではなく、一人ひとりの考えを育て、常に自己の課題をみつめさせる教室、場が求められる。それには教職にある人、保護者、社会人、すべての人の自己確立と教育への広い視野が欠かせない。(要約)』と論じています。これ程に大切な、話す力、聞く力が未熟な小学生に英語の授業を課すことに疑問を禁じ得ません。自分を表現し、相手を理解する為の自国語の確立に力を注ぐことこそ優先されるべきだと思うのです。外国語の習得はその後で充分だと考えます。

先日我が家は合併浄化槽の法定 11 条検査が終了し 松山市からの合併浄化槽維持管理費補助金を受けるための手続きをしました。年度毎に 1 万円です。東温市では旧川内町は補助金制度があるのに、旧重信町には無いという話を聞きました。一般的には保守点検を行う会社がまとめてその制度を申請するそうですが、個人でも出来るとのことです。それにしても、なんとも不可解な話です。

畑の隅で土筆を見つけました。早速、卵とじにして春を味わいました。ほろ苦い早春の香りが口いっぱいに広がりました。自然の恵みに感謝!!

友人の家ではサクランボの花が咲き揃い始めました。桜の開花予想も発表の度に早くなっています。春本番も間近です。

(K.O.)

市議会

議員定数6減の 発議などを上程

東温市 (4日・定例) 会期を

十八日までの十五日間と決め、一般会計百十一億三千万円(前年度比2.6%減)など二〇〇八年度当初予算案や、市職員特殊勤務手当見直しのための条例改正など計三十五議案、議員定数二四を六減するなどの議員発議四件を上程。「道路特定財源の暫定税率維持を求める意見書」を可決した。高須賀功市長は所信表明で、今秋の任期満了を踏まえ「第一ステージ総仕上げの年。策定した市総合計画をベースにさらなる発展に全力を注ぐ」と述べた。施策では、乳児のいる家庭を訪問する育児支援事業や就学前乳幼児の医療費完全無料化など健康福祉のまちづくりをはじめ、産業活性化、環境保全などの実施を強調した。

3/5

財政調整基金 年度末22億800万

東温市 (7日・定例) 質疑があり、高須賀功市長が掲げる「地産智商」に進展が見られないとの指摘に、同市長は「松山や東京でも売れる産品を作る生産者を育てたい。じわじわやっている」と答えた。

財政調整基金の状況について理事者は「本年度末の見込み残高は約二十二億八百万円。市の標準財政規模約七十八億八千八百万円の約28%で、県内十一市で最も高い数値」と答弁した。学校給食の安全性では理事者が「外国で製造された加工品は使っていない。国内製造ものは素材の内訳など安全性が確認できれば使用し、米や野菜は主に地元産や国産を使っている」と述べた。

二〇〇七年度一般会計補正予算五千三百六十四万円(累計百二十八億六千五百六十四万円、前年同期比0.1%減)など五議案を原案可決した。

3/8

ごみ削減方針を 廃棄物委で検討

東温市 (11日・定例) 渡部伸

二、大西勉、安井浩二(以上無所属)近藤千枝美(公明)の四氏が一般質問。温室効果ガス削減策に絡み、一世帯に年百枚無料配布している可燃ごみ用袋について理事者は「焼却施設の排出ガス削減が重要。無料配布数を減らすより、完全有料化の方がより減量化の意識につながる」と考える。ごみ削減方針については市民の意見を聞き、廃棄物検討委員会で検討する」と述べた。

ホームページのアクセス数について、理事者は月約一万四千件と説明した。

3/12

議員定数6減の18に

総務委の 採決覆る 常任委削減案も可決

東温市 (18日・定例最終) 二

〇〇八年度一般会計当初予算百十一億三千万円(前年同期比2.6%減)など三十議案を原案可決。総務委員会(藤田恒心委員長、六人)で否決された議員定数を二四から一八、常任委員会数を四から三に削減する条例一部修正案も、それぞれ原案可決した。

議員定数、常任委削減案について討論があり、佐伯強氏(共産)が「定数減で少数意見が反映されにくくなる」、渡部伸二氏(無所属)が「議会の批判監視能力が落ち、議員の多様性も失われ、この委員長報告を支持。大西佳子氏(同)は「少数意見の反映は議員の研鑽と努力で克服し、議会として行財政改革に協力すべき」と可決を主張した。採決の結果、委員長報告への反対多数で原案可決された。

ツインドーム重信(西岡川内体育センター(北方)農林業者トレーニングセンター(田窪)の指定管理者を芙蓉メンテナンス(松山市)に決定。期間は〇八年七月一一年三月。

意見書のうち「在沖繩米軍海兵隊員による少女暴行事件に抗議」再発防止を求める意見書は、総務委で米軍基地の整理縮小などを求めた項目を「国の安全保障の根幹にかかわるため、別問題として議論が必要」として削除した修正案を可決。ほか二件を原案可決。一後期高齢者医療制度の見直し、または中止撤回を求める意見書を否決した。

任期満了に伴い人権擁護委員候補者に石丸ひとみ(〇)志津川、新任、高井秀和(〇)牛渕、再任、田中梨恵子(〇)樋口、同の三氏の推薦に同意した。

3/17

東温「わんわん村」跡地

事業用分譲地に転換

3/11
 フォーム(西条市、久業などに分譲する計画。門渡社長)は、所有する東温市下林の「愛媛わんわん村」跡地を事業用分譲地として再開発する方針を固めた。三月中旬に設計を終え、同市を通じて県へ開発の許可申請を行う予定。

開発区域は県道美川松山線沿いの丘陵地約九畝で、松山自動車道川内インターチェンジから車で約七分。約四・八畝を事業用地として整備し、企

してリニューアルオープンしたが、入場者減少で〇六年八月末に閉園した。跡地利用で宅地開発も検討したが、周辺でほかの夏に工事着手し、二〇〇九年三月に全工事が完了する。同社が観光レジャー用地として開発した土地で、一九九〇年に「愛媛の祭り広場 足立の庄」として開園。二〇〇二年からは県外企業に敷地を貸し、犬のテーマパーク「愛媛わんわん村」となる。

「明日の神話」渋谷に設置

いい環境で保存可能か

3/19
 十八日に東京・渋谷区に設置が決まった「明日の神話」は、二〇〇五年七月から翌年六月にかけて東温市南方の黒板製造会社「サカワ」で修復された。

副社長の坂和克紀さん(全心)松山市岩崎町二丁目には、「メキシコまで足を運び、ぼろぼろになっていた破片を拾い集めてきた」と言い、「元気にして送り出した子どもみたいな存在で愛着は強い。」

県内関係者 愛着強く

しかし、「修復時は空調や湿度管理にとても神経を使った」だけに、渋谷駅の連絡通路の壁に展示されるの聞き、「作品にとっていい環境で保存できるのか」と心配する。

芸術を通じてまちづくりに取り組んでいる、松山市の特定非営利活動法人(NPO法人)「カコア」は〇六年三月、本県での修復を機に作品の持つ価値を考えてもらおう

多くの人の目に触れる

つとパネルディスプレイションを開いた。理事長の徳永高志さん(全心)同市道後喜多町には「(渋谷区への設置は)肯定的にとらえれば、多くの人の目に触れていいこと」と評価。ただ、「作品のある風景に人々が慣れしてしまうのが怖い。作品が持つメッセージや価値を提供し続ける機会を設けることが必要」と指摘する。

「明日の神話」は西本太郎の放ったメッセージを考えれば世界遺産にする価値がある」と言う坂和さん。自治体の所有ではなく、多くの人々の共有財産として後世に伝えていくべきだ」と力を込めた。

全小学校に拡大

市から 東温月 東来

3/19
 東温市は北吉井、東谷両小学校で二〇〇六年九月から運用しているICカード利用(集積回路)カード利用の「登下校通知システム」を四月以降、市内の全小学校七校に拡大運用する。子どもの安全に対する意識を保護者により高めてもらう狙い。十八日の市議会本会議で、カードリーダーの整備など導

入費五百七十七万円を盛り込んだ〇八年度一般会計予算が可決された。市教育委員会学校教育課によると、同システムは、児童が登下校時に校内のカードリーダーにICカードをかざし、かざした時刻を保護者と学校にメール配信。カードやサービス利用料として、保護者が児童一人当たり年間三千七百八十円を負担する。

〇七年十月に七校の保護者を対象に実施したアンケートでは、利用を望む率は約四割だった。だが同年六月に市内で登校中の女兒が男に刃物を突き付けられる事件が起きたことなどから「子どもの安全をめぐる情勢は万全と見え、意識をさらに高めてほしい」と(同課)と運用拡大する。先行二校の利用率は、〇七年十月で49・8%。



4月例会のお知らせ

皆様、桜の開花宣言も出て、春の訪れを肌で感じる頃になりましたがいかがお過ごしですか。

4月例会の知らせです。

4月9日(水)午前9時半に林宅を出て、

久万高原町を目指します。

2月例会で、個展にうかがった白形さんの近代美術コンテスト受賞作を含む巡回展が、ちょうどその時期、久万高原駅やまなみ2階で行われるので、それを鑑賞後、まだ残っているかもしれない久万の桜を楽しみたいということで計画しました。参加希望の方は、林まで4月5日までにご連絡下さい。皆様のご参加をお待ちしております。

林 智子

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2,000円/年 購読会員 1,000円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026

問合せ先 TEL/FAX 089-964-6956

E-mail: kt-hayashi@nifty.com